

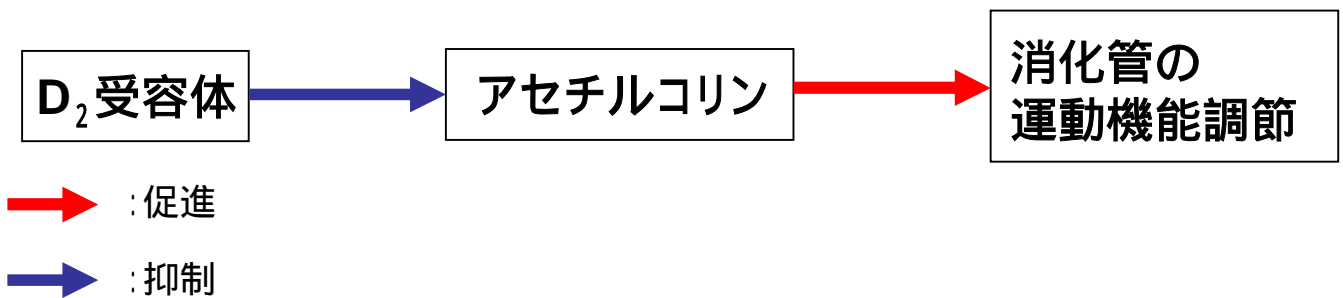
# 制吐薬

## D<sub>2</sub>受容体拮抗薬

・中枢性作用

CTZのD<sub>2</sub>受容体を遮断して制吐作用を示す

・末梢作用



D<sub>2</sub>受容体の刺激によりアセチルコリンが遊離される。  
遊離されたアセチルコリンにより消化管の運動機能を亢進する。

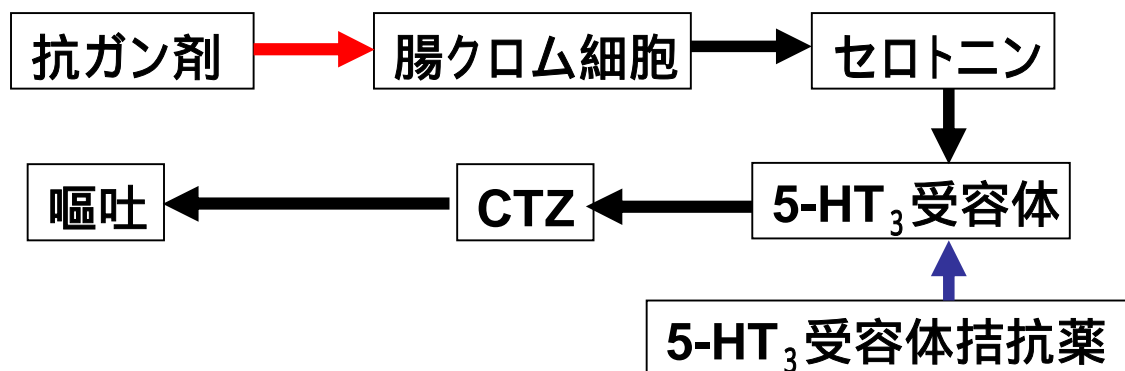
D<sub>2</sub>受容体拮抗薬はD<sub>2</sub>受容体を遮断し制吐作用を示す。  
イトプリドはアセチルコリンエステラーゼ阻害作用もあり協力的に作用する。

メクロプラミドには5-HT<sub>3</sub>受容体拮抗作用を併せ持つ。

## アセチルコリン受容体刺激薬

アセチルコリンの遊離を増大させ消化管運動機能を亢進する

## 5-HT<sub>3</sub>受容体拮抗薬



→ :促進

→ :抑制

抗ガン剤の使用により小腸粘膜の腸クロム細胞を刺激しセロトニンを遊離させる。遊離したセロトニンが5-HT<sub>3</sub>受容体と結合しCTZを刺激し嘔吐をおこす。

5-HT<sub>3</sub>受容体拮抗薬は5-HT<sub>3</sub>受容体を拮抗し嘔吐を抑制する。

## 5-HT<sub>4</sub>受容体作用薬

5-HT<sub>4</sub>受容体は副交感神経末にあり、アセチルコリンの遊離をおこなう。

## 抗ヒスタミン薬

抗ヒスタミン薬は嘔吐中枢の抑制や前庭神経核への刺激を抑制する

参考資料:治療薬マニュアル2006 医学書院

処方がわかる医療薬理学2004-2005 中原 保裕 Gakken

薬局 増刊号 病気と薬の説明ガイド2006 南山堂

今日の治療薬2007 神谷 大雄 久保 孝夫 塩見 浩人 南江堂

セロトニンと制癌剤誘起性嘔吐

南 勝 遠藤 奏 浜上 尚也 平藤 雅彦

YAKUGAKU ZASSHI124(8) 491-507(2004)